

世界医師会

WMA

World Medical Association

WMA 医の倫理マニュアル

東京大学法学部教授 樋口範雄 監訳 日本医師会 発行

原著 第3版

World Medical Association

Medical Ethics Manual



orvosi etika

éthique médicale

medizinische Ethik

éthique médicale

ética médica

医の倫理

الأخلاقيات الطبية

medisinsk etikk

lékařský etika 医療概念

Læknisfræðileg siðfræði

medische ethiek

medizinische Ethik

medical ethics

الأخلاقيات الطبية

lääketieteen etiikka

Medyczna etyka

醫學倫理

éthique médicale

אתיקה רפואית

医の倫理

medisinsk etikk

Medyczna etyka

ética médica

الأخلاقيات الطبية

אתיקה רפואית

lääketieteen etiikka

醫學倫理

medizinische Ethik etica m? dico



新生児を抱く医学生
©Roger Ball/CORBIS

**World Medical Association
Medical Ethics Manual**

WMA 医の倫理マニュアル

監訳 樋口範雄 発行 日本医師会



世界医師会 (WMA) は、医師の専門分野、活動場所あるいは診療環境にかかわらず、医師の意見を世界的に代表する機関である。WMA の使命は、すべての人々を対象にした医療、倫理、科学、教育および健康に関連した人権の可能な限り高い水準の達成に努めながら人類に奉仕することである。WMA 倫理部門は2003年に、政策文書の作成と見直しの調整、および次の3つの分野における WMA の倫理活動の拡大のために設置された。3つの分野とは、他の国際機関と連携した倫理分野における活動、会議や WMA ウェブサイトを通じたアウトリーチ活動、そしてこのマニュアルなどの倫理教育のための新しい教材の製作である。

© 2015 by The World Medical Association, Inc.

All rights reserved. Up to 10 copies of this document may be made for your non-commercial personal use, provided that credit is given to the original source. You must have prior written permission for any other reproduction, storage in a retrieval system or transmission, in any form or by any means. Requests for permission should be directed to The World Medical Association, B.P. 63, 01212 Ferney-Voltaire Cedex, France;

email: wma@wma.net, fax (+33) 450 40 59 37.

This Manual is a publication of the World Medical Association. It was written by John R. Williams, Director of Ethics, WMA (2003-2006).

Cover, design and concept by Tuuli Sauren, Inspirit International Communications, Belgium.

Production and concept by World Health Communication Associates, UK.

Pictures by Van Parys Media/CORBIS

Cataloguing-in-Publication Data

Williams, John R. (John Reynold), 1942-

Medical ethics manual.

1. Bioethics 2. Physician-Patient Relations - ethics.
3. Physician's Role 4. Biomedical Research - ethics
5. Interprofessional Relations 6. Education, Medical - ethics
7. Case reports 8. Manuals I. Title

ISBN 978-92-990079-0-7

(NLM classification: W 50)

WMA 医の倫理マニュアル (原著第3版)

監 訳 樋口 範雄 (東京大学法学部教授)
編集・製作 道永 麻里 (日本医師会常任理事)
能登 裕二 (日本医師会国際課課長)
畔柳 達雄 (日本医師会参与・弁護士)
鶴岡 慶 (日本医師会国際課審議役)
チーフ 浜本美英子 (日本医師会国際課係長)

本書は世界医師会 (WMA) の許可を得て、『Medical Ethics Manual 3rd edition 2015』を翻訳したものです。巻末の WMA 宣言・声明は日本語版用に日本医師会が追加したものです。

日本語版は日本医師会のホームページからダウンロードすることができます。

<http://www.med.or.jp/doctor/member/000320.html>

英語版 (原文) は WMA のホームページからダウンロードすることができます。

<http://www.wma.net/en/10home/index.html>

© 日本医師会 2016

日本語版を転載・複製の際はあらかじめ許諾をお求めください。

WMA Medical Ethics Manual日本語版(改訂版)の刊行にあたって

日本医師会は2007年、世界医師会が2005年に刊行した『WMA Medical Ethics Manual』の日本語版を発行し、医学生、医師、看護師など医療関係者の医の倫理教育の教材として、あまねくご利用いただき、好評を博して来ました。世界医師会はその後、マニュアル中に引用された重要な宣言の改訂に合わせるため、5年ごとに改訂を行っています。

今回刊行する日本語版(改訂版)の原著である2015年改訂版は、宣言文などの更新にとどまらず医師と患者の関係、医師と社会の関係の章で、時代の変化に応じて、一部内容の修正・付加が行われています。医療安全を目指した患者の安全宣言、危険回避のための守秘義務の緩和、終末期医療に関するWMAの動き、医療扶助に対する参加、環境問題に対する積極的働き掛けなどがそれです。

このマニュアルは、直ちに英語圏諸国に普及したほか、フランス語、スペイン語、ドイツ語、日本語、東欧諸国語、ロシア語などにも翻訳され、いわば地球的規模で使用されています。

本書の最終章で、原著者は、未来は本質的に予測不能であることから、医の倫理もフレキシブルに対応できることが必要であるが、医の倫理の基本原則、特に共感、能力、自律という価値は、基本的人権への配慮や献身的な専門職意識とともに、そのまま残るのではないかと述べています。この言葉は、医師のみならず患者に接するすべての医療関係者に当てはまるものです。この改訂版が、旧版同様、全国の医学生、医師、医療関係者のみならず、倫理関係者、法律家などに、広くご利用いただければ、発行者として大変な幸甚と存じます。

末尾ですが、この度も本マニュアルの監訳をしていただいた、東京大学の樋口範雄教授に、感謝申し上げます。

2016年8月

日本医師会会長
横倉 義武

WMA Medical Ethics Manual日本語版(初版)の刊行にあたって

『Medical Ethics Manual』は、世界医師会(WMA)によって2005年に刊行されました。WMAは現在、日本医師会を含め88の加盟医師会からなる医師の世界組織で、1947年に設立されて以来、約150件の宣言や声明を発表し、世界の医療界のさまざまな分野で大きな貢献を果たしてきました。これらの宣言などの内容は、医の倫理を中核とするものであります。そして、WMAの大きな活動のひとつとして、これらの膨大な経験をもとにした医の倫理の総合的なガイドラインを作成することが、かねてより待たれておりました。

WMAがこうした要望に見事に応えて完成したのがこの『Medical Ethics Manual』であります。WMA倫理部門のチーフであるJohn R Williams博士が中心となって、著名な医師や倫理学者たちを動員して編集されました。この内容は、医の倫理に関わる問題を包括した、きわめて画期的なものとなっております。原文は英文ですが、すでに12ヶ国語に翻訳され、現在も多くの国で翻訳が進められていると聞いております。

この日本語版『WMA医の倫理マニュアル』が、わが国の医師、看護師をはじめとする医療現場におられる方々、また医学生、医療・保健に関わるすべての方々、倫理関係者、法律家などに広く読まれ、さまざまな今日の問題解決のための指針として役立てていただければ発行者として大きな喜びです。

末筆ながら、この冊子の監訳をしていただいた東京大学の樋口範雄教授に、この場を借りて感謝を申し上げます。

2007年4月

日本医師会会長

唐澤 祥人

WMA Medical Ethics Manual 日本語版 (改訂版) の刊行にあたって ……横倉義武…	3
WMA Medical Ethics Manual 日本語版 (初版) の刊行にあたって ……唐澤祥人…	4
謝 辞	7
序 文	8

はじめに	9
■ 1 医の倫理とは？	10
■ 2 なぜ医の倫理を研究するのか？	12
■ 3 医の倫理、医師の専門職意識、人権、法	13
■ 結 論	14
第 1 章 医の倫理の主要な特徴	15
■ 目 標	15
■ 1 医療に特有なこととは？	16
■ 2 医の倫理に特有なこととは？	16
■ 3 何が倫理的かを誰が決めるのか？	18
■ 4 医の倫理は変化するのか？	20
■ 5 医の倫理は国により異なるのか？	21
■ 6 WMA の役割	22
■ 7 WMA は何が倫理的かをどのように決めるのか？	23
■ 8 個々人は何が倫理的かをどのように決めるのか？	23
■ 結 論	27
第 2 章 医師と患者	29
■ 目 標	29
■ ケース・スタディ①	30
■ 1 医師・患者関係に特有なこととは？	30
■ 2 個人の尊重と平等な扱い	31
■ 3 コミュニケーションと同意	35
■ 4 判断能力のない患者のための意思決定	38
■ 5 守秘義務	41
■ 6 出生に関する問題	45
■ 7 終末期に関する問題	46
■ ケース・スタディを振り返って	49
第 3 章 医師と社会	51
■ 目 標	51
■ ケース・スタディ②	52
■ 1 医師と社会の関係に特有なこととは？	52

	■ 2 二重忠誠	53
	■ 3 資源配分	55
	■ 4 公衆衛生	59
	■ 5 国際保健	61
	■ 6 医師と環境	62
	■ ケース・スタディを振り返って	63
第4章	医師と同僚	65
	■ 目標	65
	■ ケース・スタディ③	66
	■ 1 医学的権威に対する問題提起	66
	■ 2 同僚医師、教師、学生との関係	67
	■ 3 安全でない行為や非倫理的な行為の報告	69
	■ 4 他の医療専門職との関係	70
	■ 5 協力	71
	■ 6 対立の解消	72
	■ ケース・スタディを振り返って	74
第5章	倫理と医学研究	75
	■ 目標	75
	■ ケース・スタディ④	76
	■ 1 医学研究の重要性	76
	■ 2 臨床実務における研究	77
	■ 3 倫理要件	79
	■ ケース・スタディを振り返って	86
第6章	結論	87
	■ 1 医師の責任と特権	88
	■ 2 自分自身に対する責任	90
	■ 3 医の倫理の未来	91
付録		93
	■ 付録 A ——用語解説	94
	■ 付録 B ——インターネット上の医の倫理に関する主な情報源	97
	■ 付録 C ——世界医師会(WMA)：全世界の医学校のカリキュラムに医 の倫理と人権を含めることに関する WMA 決議 世界医学教育連盟(WFME)：質向上のための国際基準 ——基礎医学教育	98
	■ 付録 D ——医学校における倫理教育強化のために	100
	■ 付録 E ——ケース・スタディ(追加)	101

『WMA 医の倫理マニュアル 原著第3版』日本語版付録 104

- WMA ジュネーブ宣言 104
- WMA 医の国際倫理綱領 105
- WMA ヘルシンキ宣言 — 人間を対象とする医学研究の倫理的原則 106
- 患者の権利に関する WMA リスボン宣言 113
- 患者の安全に関する WMA 宣言 117
- 安楽死に関する WMA 宣言 118
- 医師の支援を受けてなされる自殺に関する WMA 声明 118
- 安楽死に関する WMA 決議 119
- 終末期疾患に関する WMA ベニス宣言 120
- 終末期医療に関する WMA 宣言 122

あとがき 畔柳達雄 ... 127

謝辞

WMAは、本書の草案に幅広く内容の深いコメントを提供してくださった以下の方々に、心から感謝いたします。

Prof. Solly Benatar, University of Cape Town, South Africa

Prof. Kenneth Boyd, University of Edinburgh, Scotland

Prof. Annette J. Braunack-Mayer, University of Adelaide, Australia

Dr. Robert Carlson, University of Edinburgh, Scotland

Mr. Sev Fluss, WMA and CIOMS, Geneva, Switzerland

Prof. Eugenijus Gefenas, University of Vilnius, Lithuania

Dr. Delon Human, WMA, Ferney-Voltaire, France

Dr. Girish Bobby Kapur, George Washington University, Washington, DC, USA

Prof. Nuala Kenny, Dalhousie University, Halifax, Canada

Prof. Cheryl Cox Macpherson, St. George's University, Grenada

Ms. Mareike Moeller, Medizinische Hochschule Hannover, Germany

Prof. Ferenc Oberfrank, Hungarian Academy of Sciences, Budapest, Hungary

Mr. Atif Rahman, Khyber Medical College, Peshawar, Pakistan

Mr. Mohamed Swailem, Banha Faculty of Medicine, Banha, Egypt, and his ten fellow students who identified vocabulary that was not familiar to individuals whose first language is other than English.

WMA 医の倫理マニュアル (英語版) の初版は教育助成金として Johnson & Johnson より一部支援を受けました。

序文

Dr. Delon Human^{訳註1}

WMA 事務総長

医の倫理の基礎を作った人たちにはヒポクラテスなどがいます。彼らが医の倫理について書にまとめたのは2000年以上も前のことです。信じがたいことに、医の倫理を教えるために医師が普遍的に利用できる基礎的なカリキュラムは今日までありませんでした。この空白を埋めるために『WMA医の倫理マニュアル』が初めて作成されました。このたび本書が刊行されるに至ったことを大変名誉に思っています。

本書の構想は1999年の第51回WMA総会にまでさかのぼります。各国の医師会を代表して世界から集まった医師が、「医の倫理と人権をカリキュラムの必須科目とすることを全世界の医学校に対して強く勧告する」ことを決議しました。これを受けて、すべての医学生と医師を対象とした、医の倫理の基礎教材を作成する準備が始まりました。本書はWMAの方針を踏まえていますが、WMAの方針文書そのものではありません。WMA倫理部門が指導してとりまとめた、世界規模での創意と意見交換の成果であると言えます。

現代の医療ではきわめて複雑で多面的な倫理的ジレンマが引き起こされています。医師はこれらに適切に対応する準備が多くの場合できていません。本書は、医師の倫理的な思考と実務を強化し、これらのジレンマに倫理的な解決策を見出すためのツールとなるように構成されています。「正しいことと誤ったこと」のリストではなく、健全で倫理的な意思決定の基礎となる医師の良識を高める企画なのです。そのためいくつかのケース・スタディが紹介されており、チーム内での議論だけでなく、個人的に倫理について熟考するときにも役立つようになっています。

倫理と信頼という枠組みのなかで、科学的知識と治療との交流を促す独特な人間関係という患者・医師関係に携わることは、医師に与えられた名誉ある権利であると思われます。本書では医師が関わるさまざまな関係において生じる問題を扱っています。その根底にあるのは常に患者・医師関係です。最近、人的および資金面の制約などに直面していますので、本書は倫理的な行為を通してこの絆を強化する必要性を示しています。

最後になりますが、医の倫理の議論においては常に患者が中心です。倫理上、治療に関わるどのような決定においても患者一人ひとりの最善の利益を第一に考えるべきだということは、ほとんどの医師会の基本政策において認められています。この『WMA医の倫理マニュアル』が、医学生や医師が日頃直面する多くの倫理問題を解決に導き、**患者第一 (TO PUT THE PATIENT FIRST)** という原則を実践する方法を見出す一助となれば幸いです。

訳註1：南アフリカ出身。1997～2004年までWMA事務総長を務める。現在の事務総長はOtmar Kloiber氏(ドイツ出身、2005年～)。